



ROTARY
BRINGS
HOPE

ロータリーは
希望を
もたらす



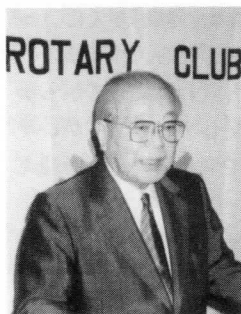
会長 山口篤之助 幹事 松田士郎 クラブ奉仕 市川輝雄 職業奉仕 庄司嘉男 社会奉仕 布施隆夫 国際奉仕 中江 亮 青少年奉仕 塚原初男

出席報告：会員 77 名 出席 47 名 出席率 77.05 % 前回出席率 78.13 % 修正出席 57 名 確定出席率 89.06 %

ゲストスピーチ

地域活動とユネスコ

日本ユネスコ協会連盟理事長 伊藤 実氏



伊藤でございます。まず皆様方の非常に大切なお集りに招きをいただきましたことに対しまして、光栄であると同時に、私として非常にうれしく思います。さらに皆様方に御礼を申し上げたいと思いますのは、民間ユネスコ活動を、この鶴岡市も非常に長い間続けておられますけれども、その陰には、皆様方ロータリーの大変なご援助があったと、又ご援助が引き続き続いているとうかがっておりますので、この席をかりまして厚くお礼申し上げます。

私どもが考えております、そしてユネスコが当面している問題に対しまして少しばかり立ち入って、お話し申し上げたいと思いますが、その前に私はもう来年で80才でございますが、こういう人間がどうしてユネスコに関係したかということ、私は、第2次世界大戦中、朝日新聞の特派員としてフランスにいた時に、日本が太平洋戦争に入りまして、それから中立国のスペインに移りまして、そこで敗戦を迎えました。自分の国が無条件降伏したと。その瞬間私の頭に浮かびましたことは、これからいかに生きるべきかでございます。“鬼畜米軍をつぶす”と書いた、かつての新聞がそのまま存続するということは世界に例がございません。日本は特例で、大新聞が残されたということ、ご承知だと思いますけれども、そういう意味で、いかに生きるべきかということを考えている時に、私の頭に浮びました一つのこ

とは、日本を新しく立て直すためには教育が基本にならなければならないということを感じたわけでございます。

勉強したことも何もございませんので、本当になぜ、そんなことが突然頭に浮んだかと申しますと、自分がそれまで、私は明治生まれでございますので大正の教育を受けてきましたが、それは教育ではなくて、政治ではなかったかということ、自分なりに反省させられまして、新しい日本は、新しい教育から出発しなければならないというようなことを考えたものでございます。

まあ、そういうことを色々考えながら、半年近くスペインで仕事もできないまま留置されたわけでございます。その時に11月16日、1945年敗戦の年にロンドンで、ユネスコ憲章が発表されました。中立国のスペインでございますから私は毎日イギリス、アメリカの新聞や雑誌を読んで、第2次世界大戦を、自分の国の敗戦を、当時の敵側の新聞で情報を集めておたわけですが、その意味で、ユネスコ憲章がロンドンのタイムズで、全紙面をさいて報告されました。それを読んでいる時に、皆さんもご記憶の方もおありだと思いますけれども、“戦争は人間の心の中に始まるんだから、心の中に平和の砦をきずかなければならない”と、あの有名な文句が出てまいりました。私はなにか目がさめたような感じがいたしました。そしてさらに、ユネスコ憲章を読みますと、“政府の政治的及び経済的取り引き面のみにとずく平和は、世界の人民の一致した、しかも永続する、誠実な支持をうることはできない”と政府間の政治的とりきめや永久の平和は実現しない

庄内空港の建設を推進しましょう

ということが書いてあります。そしてそれに続いて書いてあることばが、“よって、平和が失なわれな
いたためには人類の知的及び精神的連帯の上にきずか
なければならぬ”と……。

ロータリー会員の皆様にあらためてこんなことを
申し上げるのも恐縮でございますが、私どもは人間
と人間、世界の人間一人ひとりが友達をつくり、そ
して、知的精神的教育をすることは、永久の平和を
きづくもとであると。私はこれを読んだ時に、今で
いう民間運動であると感じておりました。そして政
府の運動ではなく、われわれ国民がやる運動ならば
新聞記者としての自分にも何か出来るのではないかと
考えたのは一つございました。

そして、その年が開けてから、アメリカの命
令でヨーロッパにおりました日本人全員が、スペ
インのバナナを運ぶ小さな船底につきこまれました。
大使も武官も全員船底です。ハンモックを三段に、
60日間の船旅で送り返されたわけでございます。

日本に上陸した時にアメリカ軍の若い兵隊さんか
ら、頭にDDTをかけられ、すっ裸にさせられ、全
身をレントゲンで調べられました。万年筆なども全
部インクを出して中まで調べるといった具合で、あ
あいうところに宝石をかくす事もあるんだそうです。
まあそんな思いをして帰ってまいりました。そして
元通り朝日新聞がでているというので、さっそく上
陸した足で新聞社に飛びこんで、私はそれから教育
のことを勉強させてくれといいました。ちょうど日
本で教育改革で、教育視察団がアメリカから来てお
った時でございます。そしてそれ以来、私が論説委
員になってからは教育担当、そして東京都の教育委
員として12年間やりました。そんな様なことで、私
は、民間運動としてのユネスコこそが、新聞記者の
私としても自分の生きがいという風に自分に言い聞
かせて今日まで来たわけでございます。

そこで、日本の民間ユネスコ運動というものにつ
いて、ご承知の方は多いわけですが、一言ふれさせ
ていただきたいと思います。

私が21年に帰ってまいりましたその翌年、7月19
日に、仙台で民間ユネスコののろしがあがりました。
その当時は土井先生やフランス文学で、私どもの協
会の副会長をやっている桑原先生が助教授でおられ
たわけです。そういう方々が、まずユネスコ協力会
というもの（協会とは言えないわけです）がつくら
れ、その後、相次いで大阪や関西に、又、東京では
物理学者の西田先生がユネスコ協力会というものを

開かれたわけです。それから2～3年してから鶴岡
のユネスコも期を一にしてつくられたと受けたまわ
りました。非常に早い、又、古いユネスコ協会でご
ざいます。

全国を見ておりましても、知識階級が中心になっ
てつくられて、ユネスコの出張所を東京に置かれま
した。又、その人々から見て、日本のユネスコ運動
は本物であるというので、昭和26年に国連にも認め
られていない日本が国際機構であるユネスコに参加
を認められたわけでございますが、平和会議が行な
われる前に、敗戦国日本が国際機構に参加を認めら
れたことが私どもの誇りというふうに考えておりま
す。そうしまして情熱をもって進んできたユネスコ
でございますが、昭和30年代の経済成長がはじまり
ますと、非常に下火になりました。私の友人に、ユ
ネスコに参加してくれと言いましたら、「ユネスコ
に入ると何かもうかるか？」と言われましてがっかり
して、今でもその友人と絶交しておりますが、そ
の様なわけで、はっきり言って冷めたい時代を迎え
ます。

ところが1973年、石油ショックがあった時、日本
人は“ハッ”と忘れていたことを取り戻したかのご
とくに、物の世界だけではない、心の世界を取り
戻さなければならないという気運が起りました
時から、民間ユネスコの活性化ということに努力し
てまいりました。そして1974年にアジア連盟をつ
くり、設立を京都でいたしました。その時にアフリ
カとか中南米からお客を迎えました。そこで世界連
盟をつくれということになりまして、民間運動の世
界連盟が1981年に出来ました。そして第1回の世界
総会を日本で開けというのが世界の要求でしたので、
3年前に、世界大会を仙台、東京、神戸、広島で行
なわれ、その時に参加した人々の中で何人かが鶴岡
にもお招きいただき、大変ありがとうございました。
あらためてお礼申し上げます。そして第2回の世界
会議が今年の7月からスペインのマドリードで予定
されております。その様なわけで日本の民間ユネス
コの歩みを説明しましたが、一方世界ユネスコはど
うなっているかと申しますと、世界のユネスコとい
えば政府の代表が集まっている、パリのユネスコ本
部のことを示しているわけですが、ユネスコがで
きた時にユネスコ憲章を読んで私が興奮し、感激し
ました当時ユネスコに参加していたのは24ヶ国です。
しかも各国の第一級の知識人が論客として集まっ
ていたわけでございますが、1960年代になりましてか

ら植民地から独立した、いわゆる第3世界の国々が百ヶ国も入って来ました。今は151ヶ国ですが。こうなると、世界の知識人だけが平和を論じているというようなわけにはいかないのです。第3世界は要求するだけです。今までわれわれを植民地にしておいたのだから“これも助ける、あれも助ける”と。

そうしますと、一番分担金の多いアメリカ側は、分担金を出ないそんな国と、4分の1も払っている国との間での問題と、ソビエトが支配している東ヨーロッパなどの発言が数の上で非常に多くなってしまいました。つまりユネスコが政治化してしまったということが3年前の脱退の主たる理由でございますが、ほかの見方をしますと、アメリカが戦後処理を国連によってやろうと思ったわけです。拒否権もっていますから。しかし、ユネスコには拒否権がないわけなので、そういう国連機構にいや気を差しているのが本当のところでしょう。それよりも2国間交渉で自分が思うような国に金を出してゆくというような方向に行っております。

アメリカ脱退の時に私は日本の国内委員会をやっています、日本も危ないと思っておりましたが、委員会としては絶対に脱退してならないと言うことでした。又、アメリカにしてもイギリスにしても国内委員会は全面的に脱退反対でございました。それはレーガン大統領もサッチャー首相も、議会もさしおいての決定であったことが今日言われているわけでございます。大変言葉少なくて、私にまちがいがあられるかもしれませんが、一冊だけユネスコの危機ということに感心ある方には是非おすすめしたい本が最近出ましたので紹介します。それはキリスト教大学助教授で、最上敏樹先生が書いた「ユネスコの危機と世界の秩序」。そしてサブタイトルが「非暴力革命としての国際機構」が東研出版から最近出ておりました、大変好評を呼んでおりました、今日の世界情勢、国際関係にふれた本なので紹介します。この中にアメリカ脱退の理由などが述べられております。

最後に、皆様と共に考えてゆきたいことは、私どものユネスコ運動もロータリーの皆様方も、戦争を願っている人は一人もないわけです。平和ということは以前は戦争のないということでしたが、今は第2次世界大戦後の考え方には、一言で申すならば戦争がないだけが平和ではないんだ、人間が明日の食べる食事にもこまる様、アフリカ、東南アジアにおける飢餓の問題であります。又、あるいは自然破

壊、開発の名においての樹木を切ってしまうことが地球の安全をどこまで保障できるかという問題がございます。これも一つの平和問題として今日私どもは考えなければならぬと思います。

ユネスコがやる仕事はまず、第3世界の子供の教育からやらなければならないと思います。食糧を送るのもいいことだと思います。衣服を送るのもいいと思います。しかし、根本的に、その国が自分の力で生きてゆけるという基本は教育からされなければならないと思っております。私は来年ユネスコで世界の文盲を一掃しようと年間テーマで準備しておりますが、世界の平和とユネスコとなれば、平和の考え方が戦争がないということだけではなくて、この地球を安全に守るということが、今日かせられた平和の問題の大きな課題ではないかと……。

それに対して私どもはどのように対処すべきかを考えさせられております。

われわれは本当に物ごとをグローバルに、地球的に考えなければならぬと思います。

1969年にアメリカのアームストロングが初めて月に降り立ち、何んと言ったか。「なんだ、地球なんて宇宙に浮んでる小さなボートじゃないか」と。これから宇宙船地球号という言葉ができました。あんな小さなボートの中で、顔が黒いとか白いか、また黄色とか言っって人間が争っておれば、あのスモールボートは沈んでしまうということを言いました。われわれは地球的に物ごとを考えるとということに対しては、習れてきました。しかし日常生活の中で、平和は絶対なくしちゃいけないと言ってるだけで、ことが済むわけではありません。具体的にその地域にしっかり足をおろした、根のはった運動がなければなりません。そこで、シンク、グローバリー、アクト、ローカリー、行動は地域的に。

これからのわれわれは、確かに世界的に物ごとを考えなければいけません、実際には自分達の地域で、自然が失なわれてはいないか、というような色々な問題に当面すると思いますし、それに対して具体的に運動をすすめるのが、民間ユネスコの本来の姿だと思います。

ロータリーの皆様にも色々お力添えを頂いたことをあらためてお礼申し上げます、私のスピーチを終わります。

ありがとうございました。

会長報告

山口篤之助 君

1. 臨時理事会の審議の結果を申し上げます。
- ① 去る4月14日(火)石黒P.G、北楯分区代理のご出席をいただき第1回拡大委員会が開かれました。拡大をするための理事会の承認と会員の承認をいただく様要請されました。審議の結果、満場一致可決されました。又、例会時会員の皆様にお計り致しました処、賛成多数で可決されました。
- ② 次の両名がクラブ会員通算20年以上、65才に達しましたので、出席規定の免除を書面にて提出され承認されました。
- 佐藤 昇さん 三井 健さん
- ③ 会員嶺岸光吉さんより入院診療の為当分の間と、賜暇願いが出され、承認されました。
- ④ 会員の津田晋介さんより足の怪我の為、当分の間例会を休みたいとの賜暇願いが出ます。承認されました。
2. 皆川光吉さんの母堂が80才のご高令で16日午後10時35分お亡くなりになりました。規定によりご香典をお供えし、お悔みに行き参りまいりました。ご冥福をお祈りします。なお、葬儀は19日に行われました。

幹事報告

松田士郎 君

- ロータリー適用相場変更のお知らせ
本年4月1日から現行156円のレートを1ドル146円に変更になります。
- 加藤和一山形銀行長井支店長より転任のあいさつ状到着(回覧)
- 東北電力情報No.34到着(回覧)
- 第253地区郡山西北ロータリークラブ創立10周年記念式典のご案内
日時 6月14日(日) 午後1時
ところ 郡山ビューホテル
登録料 8,000円
申込〆切 5月10日
- 例会日時・場所変更のお知らせ
八幡R.C 4月25日(土)の例会を花見の為
日時 4月26日(日) 午前11時点鐘
場所 舞鶴公園(雨天の場合は八森荘)
登録料 3,000円

社会奉仕委員会

財団法人山新放送愛の事業団より
昭和62年度援助・助成推薦依頼の件

布旋隆夫 君

福祉協議会、福祉事務所とも本年度の事業としては成り立たず、推薦されても本年度は断念せざるを得ないとのこと。しかし、63年度以降には事業化したい意向であり、チャンスがあるならば期待したいとのことであった。

スマイル

張 紹淵君 昭和40年(1965年)、私がR.Cの7代目の会長であった。その時に桜の苗を100本位私の医院の救急車に積み、市立二中学校の土堤に植えて2~3年間管理したが、あのときの校長先生が大山校長先生に贈呈式をやられた。その写真も残っておりますが、あれから22年過ぎた。今や桜花満開で、全部で97本残って大木となり立派なものだ。高令会員と共に皆様も喜び、報告する。公園の桜の花よりもすばらしいもので、これも本クラブの広報にもなれると思ひ報告してニコニコ箱にスマイルする。

吉野 勲君 孫の幼稚園入園の為。

ゲスト

社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長

伊藤 昇氏
日本ユネスコ協会鶴岡事務局 本間 要氏

ビジター

鶴岡西R.C 村山 貢君・斎藤健治君
三井盾夫君

米山奨学会協力金

計 7,255円(1ドル146円)